

横須賀市自然・人文博物館付属

馬堀自然教育園／天神島臨海自然教育園・ビジターセンター
し ぜ ん き ょ う い く え ん

自然教育園だより

Vol.2 No.2

(2009年 夏号)

2009年 6月 10日 発行

横須賀市自然・人文博物館

046-824-3688

天神島臨海自然教育園

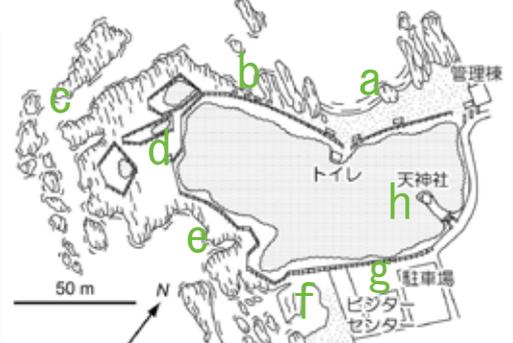
◆自然教育園での出来事 (2009年3-5月)◆



打ち上がったイバラガニモドキ



クロイソウミウシ (園内初記録)



観察マップ：文中のa～hに対応。



イセリアカイガラムシ



アオサ類をくわえるツバメ



キヌバリの幼魚



テリハノイバラとミヤコグサ

3月27日 笠島でウメボシイソギンチャクを確認しました。
4月2日 ウラシマソウ、ハマダイコンが開花していた。
4月5日 イバラガニモドキ (A) が打ちあがっていた (e)。
4月7日 ルアーをぶら下げたウミネコが飛んでいた。
4月8日 コジュケイが鳴いていた (h)。クロヘリアメフラシが岩場の海藻の上で産卵していた (b)。
4月9日 セグロアシナガバチがハマウドの枯れ枝をかじって巣の材料にしていた (a)。マルバグミが実をつけていた。トベラの枝や葉の裏にイセリアカイガラムシ (B) がついていた (g)。同じ場所に天敵のベダリアテントウもいた。
4月10日 スズメ同士、ハクセキレイ同士が争っていた (g)。
4月11日 磯でホンヤドカリのペアを多数見た。カワラヒワの求愛行動が見られた。トビのペアの巣材運びも見られた。
4月15日 駐車場でツバメが泥を採集していた。マルバアキグミの花が咲いていた。
4月17日 トビとハシブトガラスが争っていた (h)。
4月18日 コサギの群れ 35羽が上空を飛んでいた。キビタキの声を確認した (h)。
4月19日 沖の漁船の周りで 100羽以上のトビが旋回していた。管理棟そばの岩場でカワセミが見られた。
4月23日 チュウシャクシギが飛来した。イソヒヨドリがさえずっていた (g)。ハマエンドウが満開だった (a)。ツツジ (園芸品種) の花にコマルハナバチとニホンミツバチ、セグロアシナガバチ、葉の裏にオオキンカメムシがいた (g)。
4月24日 岩場でクロサギとイソシギを見た。ハマボッス、ト

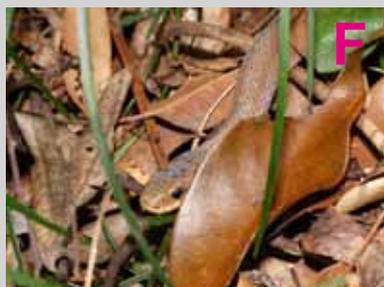
ベラが開花した。
4月26日 強風で 50羽以上のアオサギとダイサギ 2羽、コサギ 1羽が笠島の岩陰で休んでいた。
4月29日 天満宮の森でエゾムシクイの声を聞いた。森と岩場でコガラのさえずる姿を確認した。ツバメが巣材にアオサ類をくわえた (C)(f)。磯でキヌバリの幼魚 (D) を見た (b)。トベラの花にハナムグリが集まっていた。
5月3日 婚姻色のコサギ 4羽が笠島で休んでいた。
5月8日 ハマハナヤスリを見た。ヤマグワに実が熟した。
5月9日 ヒゲコメツキとコフキゾウムシを見た (a)。キョウジョシギ 40羽の群れの中にコオバシギ 1羽を確認した (c)。
5月10日 天満宮の森でアオゲラの声を聞いた。
5月15日 イカルチドリを確認した。
5月16日 ガンギエイの卵塊とアカメフグが打上がった。
5月17日 クロサギがクサフグを捕らえ食わずに去った (b)。
5月21日 テリハノイバラ (E) が開花した (d)。
5月22日 1000以上のミズナギドリ類が飛んでいた。
5月24日 園内初記録となるクロイソウミウシ (F) を見た (b)。
5月26日 スナダコが干上がって死んでいた。転石の下にオハリコテッポウエビ、テッポウエビモドキ、セジロムラサキエビなどが観察された (b)。ハマウドの花にアカスジカメムシが集まっていた (a)。クサフグが産卵していた (b)。
5月29日 笠島で 500羽以上のウミネコが飛んでいた。
5月30日 イワツバメが駐車場に飛来し泥を採集していた。
5月31日 オオバイボタの花が咲いた。露出した木の根にたくさんのフナムシが塊になっていた (b)。

馬堀自然教育園

◆自然教育園での出来事 (2009年3-5月)◆



下の池に飛来したカワセミ



落葉中から顔を出したジムグリ



クワゴマダラヒトリの幼虫



オオシマザクラ



キアシナガバチと初期巣



タブノキハウラウスフシ

- 3月7日 トウキョウサンショウウオが産卵のために姿を現すようになり、3回の見回りでのべ20個体を確認した(c)。上の池でトウキョウサンショウウオの卵のうにイモリが食いついていた。学習棟のトウキョウサンショウウオが孵化した。
- 3月12日 フキの葉にクワゴマダラヒトリの若い幼虫(A)がいた。ヤブレガサとウラシマソウの葉が出た。(b)
- 3月18日 ルリタテハが学習棟前を飛翔していた。タチツボスミレとハナニラが咲き出した(b)。
- 3月19日 フキの花にモンシロチョウとキチョウが来た(b)。ヒヨドリがイロハモミジの花を食べた。キセキレイが来た(c)。
- 3月21日 オオシマザクラ(B)が開花した(a)。
- 3月24日 朝、ウグイスがさえずっていた。下の池にカワセミがエサを捕りに来ていた。ムラサキケマンが咲いた。
- 3月26日 トウキョウサンショウウオの卵が被害され、アライグマの糞が残されていた(c)。上の池のイモリの雄に婚姻色が現れていた。水路内にゲンジボタルの幼虫がいた。
- 3月27日 アオキの雌花、ウラシマソウ、アケビ、ミツバアケビ、セキショウの花が咲いていた(a,b)。
- 4月3日 オオシマザクラが満開。ヤブニンジンが開花した。
- 4月4日 オオカナダモにイモリの卵が産みつけられていた。樹上にツマグロオオヨコバイとシロホシテントウがいた(c)。
- 4月12日 キアシナガバチが巣づくり(C)を始めていた(a)。
- 4月12日 ヤマグワ、エノキの花が咲いていた(a)。

- 4月17日 下の池でカワセミ(D)が観察されるようになった。
- 4月19日 カワトンボが出た(c)。オニグルミが咲いた。
- 4月24日 ミズキが開花した。カワセミのオスがメスに求愛のエサやりをしていた。
- 4月29日 エビネの花が咲いていた。
- 4月30日 コセアカアメンボのオスとメスがくっついて泳いでいた(c)。エサキモンキツノカメムシがアオキの葉にいた。
- 4月30日 タブノキの葉にタブノキハウラウスフシという虫こぶ(E)ができ、中にタマバエの仲間の幼虫が入っていた(b)。
- 5月2日 カワコザラガイとジムグリ(F)を園内初記録(c)。アオオサムシが園路を走って横切った(a)。ヤマグワの実が赤く色づき始め、葉の上にクワゴの若い幼虫がいた(a)。コジャノメが飛んでいた(a)。
- 5月4日 ギンランが2か所で咲いていた。アオスジアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハが飛んでいた(a)。
- 5月6日 ミヤマナルコユリ、ヤマツツジの花が咲いていた。
- 5月9日 オオヒラタシデムシが死んだミスジマイマイに集まっていた。ワラジカイガラムシの一種が交尾をしていた(b)。
- 5月10日 トベラの花が咲き始めた。
- 5月15日 オオバイボタとテイカカズラが開花。キアシドクガが下の池に飛んできた。
- 5月19日 コゲラが2羽来ていた(a)。
- 5月26日 下の池にシオカラトンボがいた。
- 5月29日 イヌビワにエサキモンキツノカメムシがいた(b)。

特別展示 「ボタニカルアートの原点」

天神島のハマボウは、1935年に佐藤達夫氏によって発見され、これは、天神島が県の天然記念物に指定されるきっかけの一つになりました。

佐藤氏は少年のころから植物に親しみ、仕事の傍ら植物画を描くことに心血を注がれました。今回の特別展示では50点の原画を展示します。厳密さと芸術性を備えた正確

で美しい植物画をぜひご覧ください。2009年7月18日(土)～10月4日(日)。本館特別展示室。

●特別展示講演会「佐藤達夫さんと植物画」

講師：大場秀章氏(東京大学名誉教授)
2009年9月12日(土) 14:00～16:00 本館講座室
定員100名(当日先着順)

◆自然教育園ガイド◆ 「天神島の夏の花」

四季を通じて花や実の観察を楽しむことのできる天神島でも、夏は特に多彩な海岸植物が次々と咲き誇ります。海中でも、海草が6,7月に果期を迎え、普段目にする事の少ないアマモ類の実やタネを、海岸に打ちあがった花茎の中に見ることができます。

梅雨時に海岸で目を引く植物はハマウドとスカシユリでしょう。ハマウドはアシタバの仲間、早春から伸び始めた花茎はときに2mを超えます。3つに分かれた大きな葉は、表面に光沢があり肉厚で、縁には細かな鋸歯があります。花茎の先端には白く小さな花が多数集まり、傘のように横に大きく広がった花序をつくります。秋には薄い円盤状の果実が熟し、花茎は根とともに枯れます。枯れた花茎を見ると、太い茎は、軽くて丈夫、中も空洞でまるで竹のようであることがわかります。

スカシユリは花びらのもとが細く、花を覗くと向こう側が見え、「透かし

百合」が名前の由来です。鮮やかなオレンジ色の地にこげ茶色の斑点が特徴的です。剣崎や城ヶ島などの海崖には点々と見られますが、天神島のような群生はほかに見られません。

7,8月に最盛期を迎える海岸植物にハマオモト、ハマボウ、ハマゴウ、ハマナデシコなどがあります。ハマボウはハイビスカスの一種で、夏の海や青空によく映える黄色の花びらに赤い雌しべが印象的な、いかにも南国的な花です。しかし分布は天神島以西の本州と四国、九州～奄美大島で、落葉性です。シーボルトらが命名した学名は *Hibiscus hamabo* と



ハマウド スカシユリ ハマボウ ハマオモト

和名がそのままラテン語化されて使われています。自然分布の北限に当たる天神島のハマボウは1935年に発見されました。そのいきさつは7月18日から始まる博物館本館特別展示「ボタニカルアートの原点」をぜひご覧ください。

このほか、枝ばかりか太い幹も岩や砂の上を長くはうハマゴウが青紫の花をつけ、深緑色で光沢のある葉と赤紫の花が美しいハマナデシコ（フジナデシコ）が咲きます。そして、市の花ハマオモトは、白く繊細な花びらと甘い香りを漂わせ、暖かければ10月まで楽しむことができます。（大森 記）

◇博物館行事レポート◇

博物館フォーラム「馬堀自然教育園の魅力」 (3月24日・参加者46名)

2009年で開園50周年を迎えた馬堀自然教育園をフォーラムのテーマとし、今後の活用について考える機会としました。また、当園に隣接する市立馬堀中学校と共同開催し、体育館を会場としてお借りしました。

当園の開園当初を知る柴田敏隆氏や寺島浩一氏、当園の水辺環境の整備・保全に関わった大場信義当館研究員、当園を環境教育に活用している同中学校の川瀬智晴教諭、当園の調査に協力している三浦半島昆虫研究会の橋本慎太郎氏、そして当博物館の大森雄治学芸員から、それぞれ興味深い話を聞くことができました。

また、当日公開された馬堀自然教育園を紹介する展示は、同園学習棟で見ることができます。（内船 記）



自然観察会「海藻入門講座」

(4月12日・参加者14名)

東京や鎌倉からの参加者も含む市民14名が春の潮風の中で海藻観察を楽しみました。講師の東京海洋大学海洋科学部の田中次郎先生をはじめ、同大藻類学研究室の先生2名と学生16名による調査を兼ねた観察会として、今年で4年目になります。午前中は、市民も学生も一緒に先生方の説明を受けながら、それぞれ「これは」と思う海藻を採取しました。昼食後、海藻の分類と生態の説明に続き、集められた海藻を田中先生が同定・分類し、種ごとの特徴の話を聞きました。「三浦半島の海藻」展開催中でもあり、参加者の関心も高く、熱心に見分け方などを学んでいました。今回は緑藻13種、褐藻26種、紅藻34種、海草2種の合計75種が記録されました。（大森・高橋 記）



観察会の様子と
ヒトエグサ。

自然観察会「ウミウシの観察会」

(5月24日・参加者27名)

1年でもっとも日中に潮がひくこの時期に、「海の宝石」ともいわれるウミウシ類を観察するという行事です。当日朝はあいにくの雨模様で観察会は中止と思われましたが、開始時刻の10時直前になって雨が上がり、なんとか開催できました。海岸で最初に見つかったのは浅瀬にとり残されたマダコでした。生きたタコにふれるのがはじめての参加者も多く、吸盤の力強さにおどろいていました。目的のウミウシ類は、全長15cmほどのアメフラシから全長1cmしかないリュウモンイロウミウシ、天神島で初めての記録となったクロイソウミウシなど全部で16種類が観察され、天神島臨海自然教育園のウミウシ類の多様性を実感した観察会となりました。（萩原 記）



はじめてのマダコにビックリ！

◆自然教育園イベント紹介◆

— 博物館教室 —

1. 植物の観察と分類B

植物のつくりの基本である花・果実・種子・葉・茎・根を身近な植物を材料にじっくり観察します。また、三浦半島に見られる科を中心に植物の主な科や属の分類を紹介します。2009年9/11、10/9、11/13、12/11(各金)の全4回。10:00-12:00。馬堀自然教育園および天神島臨海自然教育園。対象は中学生以上10名。野外保険料各回50円。締切:8/28(金)。

— 自然観察会 —

1. ホタルの観察I

当館付属馬堀自然教育園で、20年以上にわたって保護および生息環境の整備に努めているゲンジボタルとヘイケボタルを、生息環境の解説を聞きながら観察します。2009年6/27(土)18:00-20:00。馬堀自然教育園。対象は小学生以上60名(ただし、小学生は保護者同伴のこと)。野外保険料1人50円。締切:6/13(土)。

※「ホタルの観察II」との同時申し込み不可。

2. ホタルの観察II

上記「ホタルの観察I」と同じ内容です。2009年6/28(日)18:00-20:00。馬堀自然教育園。対象は小学生以上60名(ただし、小学生は保護者同伴のこと)。野外保険料1人50円。締切:6/13(土)。

※「ホタルの観察I」との同時申し込み不可。

— 夏休み企画 —

1. スノーケリングによる海の生き物観察会

スノーケリング器材の基本的な使い方を学び、それらを使って魚や貝、エビ・カニ、海藻など、海の生き物の観察を実践します。2009年7/26[講座]10:30~15:30、8/1[実習]9:30~16:00。天神島臨海自然教育園。対象は小学校5年生以上30名(両日参加が条件。小学

生は保護者同伴のこと)。野外保険料50円。機材貸出を希望する場合、申込時に身長・体重・足サイズを申告すること。

2. 夜の昆虫しらべ

昆虫の中には、夜になると活発になるものがあります。こうした夜の昆虫の生活を、海沿いの環境で観察する調査を体験しましょう。2009年8/8(土)17:00~20:30。天神島臨海自然教育園。対象は小学生以上20名(ただし、小学生は保護者同伴のこと)。野外保険料50円。締切:7月25日(土)。

— 天神島めぐり —

対象は小学生以上(小学生は保護者同伴のこと)。先着20名(事前申込不要)。野外保険料50円。

1. 潮溜まりの生き物

1年で最も干満の差が大きくなるこの時期、潮間帯の岩礁にできる潮だまりにくらすカニやヤドカリ、巻貝、ウニ、小魚などを観察します。2009年6/21(日)10:30~12:00。天神島ビジターセンター集合。

2. 海浜昆虫—夏—

天神島には海岸・草原・林があり、小さな昆虫達にとっては多様な変化に富んだ環境です。園内を歩いていろいろな昆虫を観察しましょう。2009年7/19(日)10:30~12:00。天神島ビジターセンター集合。

— 天神島ミニ企画展示 —

天神島ビジターセンター1階の展示ケースにて展示。

1. ビーチコーミングの楽しみ方

海で漂着物を観察することは、海の自然や人の関わりなどについて知るきっかけになります。天神島における漂着物や、漂着物の楽しみ方をご紹介します。2010年3/28(日)まで。

◆横須賀市自然・人文博物館 付属自然教育園◆

教育園へのアクセス

天神島臨海自然教育園
天神島ビジターセンター

馬堀自然教育園
〒239-0802
横須賀市馬堀町4-10-3
TEL 046-841-5727

天神島臨海自然教育園
(ビジターセンター)
〒240-0103
横須賀市佐島3-7-3
TEL 046-856-0717

博物館本館
〒238-0016 横須賀市深田台95
TEL 046-824-3688
FAX 046-824-3658

休館・休園日 月曜日・年末年始
(7月20日開館園・7月21日休館園)
開館・開園時間 9:00-17:00
(自然教育園 10~3月は16:30まで)

博物館ホームページ

<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>

◆自然教育園をご利用の際の注意◆

- ①動植物の採集はできません。
- ②ペットを連れての入園・レジャー用品の持ち込みはご遠慮ください。